

総合人文科学研究センター 活動報告

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

文学研究科生のための DC 応募チャレンジセミナー

日時：2024 年 4 月 10 日（水）10:40～12:20

場所：早稲田大学戸山キャンパス 33 号館 3 階第 1 会議室

早稲田大学総合人文科学研究センターでは、キャリア初期研究者支援の一環として、毎年《日本学術振興会特別研究員（DC）》応募チャレンジセミナーを実施している。2024 年度はオンラインで開催した。

所長挨拶：山本聰美（早稲田大学総合人文科学研究センター所長）

DC 応募に際しての諸注意：早稲田大学文学学術院事務所

DC 経験者からのアドバイス：村山雄紀（早稲田大学総合人文科学研究センター助手）

申請書のポイント紹介①：文学研究科博士後期課程 相良海香子（専門：日本史学、令和 5 年度 DC2 採用者）

申請書のポイント紹介②：文学研究科博士後期課程 高橋和日子（専門：日本演劇、令和 6 年度 DC2 採用者）

質疑応答：村山雄紀、相良海香子、高橋和日子

参加者：文学研究科在籍学生 54 名

新任教員による研究紹介セミナー

日時：2024 年 5 月 8 日（水）、5 月 22 日（水）、6 月 12 日（水）、6 月 26 日（水）

場所：オンライン開催（Zoom）

新任教員による研究紹介セミナーでは毎年、当センターが目指す人文学領域における活発な横断研究の促進を図るため、当該年度に文学学術院に着任した教授、准教授、専任講師らに研究紹介をしていただいている。本年度は全 4 回のセミナーを設けた。

第 1 回登壇者（5 月 8 日）

司会：小野正嗣（早稲田大学総合人文科学研究センター副所長）

斎藤慶子 講師（任期付） 専門：日露バレエ交流史

鈴木貴宇 教授 専門：日本近代文文学

張恒悦 教授（任期付） 専門：中国語

第 2 回登壇者（5 月 22 日）

司会：小野正嗣

中門亮太 准教授 専門：考古学

小松史生子 教授 専門：日本近代文学

第 3 回登壇者（6 月 12 日）

司会：小野正嗣

山辺恵理子 准教授（テニュアトラック） 専門：教育学

中島那奈子 准教授 専門：ダンス研究・ダンスドラマトゥルギー

山崎玲美奈 准教授（任期付） 専門：朝鮮語

第 4 回登壇者（6 月 26 日）

司会：小野正嗣

紺野達也 教授 専門：中国古典文学

清水拓 講師（任期付） 専門：社会学

加藤大鶴 教授 専門：日本語学

2024 年度 総合人文科学研究センター年次フォーラム

第五回中日古典学ワークショップ／第五届中日古典学工作坊

日時：2024 年 11 月 9 日（土）9:00～18:00、11 月 10 日（日）9:00～12:30

場所：早稲田大学戸山キャンパス 38 号館 AV 教室

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作国際日本学研究所、

北京大学中文系中国古典学研究平台

プログラムや詳細の開催報告は、本誌 225～230 頁を参照。

英語による論文執筆英語・研究発表のための講座

英語ディスカッション・プレゼン入門講座

日時：(講義) 2024 年 5 月 31 日（金）5 限（17:00～18:40）対面開催

(実践レッスン) ※下記のいずれか 1 回に参加

2024 年 6 月 18 日（火）5 限（17:00～18:40）対面開催

2024 年 6 月 20 日（木）5 限（17:00～18:40）オンライン開催

2024 年 6 月 21 日（金）5 限（17:00～18:40）対面開催

会場：オンライン／戸山キャンパス 33 号館 6 階第 11 会議室

講師：Cynthia Gonzales（早稲田大学アカデミックソリューション講師）

使用言語：英語

参加者：早稲田大学大学院文学研究科在籍者 7 名

英語論文ライティング講座（入門編）

日時：2024 年 10 月 30 日（水）15:05～16:45

形式：対面（早稲田大学戸山キャンパス 31 号館 1 階 102 教室）

講師：Peter Chin（早稲田大学アカデミックソリューション講師）

使用言語：英語

参加者：早稲田大学大学院文学研究科在籍者 6 名

英語論文ライティング・ラウンドテーブル

日時：2025 年 3 月 14 日（金）15:05～16:45

形式：対面（早稲田大学戸山キャンパス 31 号館 1 階 103 教室）・オンライン（Zoom）併用

パネリスト：大平和希子（上智大学グローバル教育センター助教）

高橋薫（東京大学大学院教育学研究科特任研究員）

司会・進行：リーブズ・クリストファー（早稲田大学文学学術院准教授・総合人文科学研究センター副所長）

使用言語：英語

参加者：10 名（対面 1 名、オンライン 9 名）

早稲田大学比較文学研究室

イベント「『オシリス、石ノ神』をめぐって——吉増剛造インタビュー」

日時：2024 年 12 月 21 日（土）

場所：早稲田大学戸山キャンパス 33 号館 3 階第 1 会議室

登壇：吉増剛造（詩人）、司会・聞き手：堀内正規（本学教授）

来場者は学内者約 10 名、学外者約 40 名。『オシリス、石ノ神』について、堀内正規先生（本学教授）によるイントロダクションのあと、質問に答えていただく対話形式で、吉増剛造さんが、この詩集の成り立ち、意

図、書籍化するに当たっての意識、詩集に現れた問題（縄文文化、民俗学、環状列石、アメリカ原住民文化など）について語られた。またこの詩集の核となる『現代詩手帖』の連載（1982年9月～1983年6月）を編集者として担当し、単行本の編集者でもあった樋口良澄氏が来場されたので、樋口氏からも貴重な証言をしていただくことができた。

後半の時間には、出席者からさまざまな発言をしていただき、さながら大規模な読書会のような祝祭的な雰囲気の中で、アカデミックな複数の声の交響が実現できた。

『比較文学年誌 第61号』の編集・発行（2025年3月発行）

- ・宮城徳也「アウェィアヌス『イソップ寓話詩集』の独創性と意義——「犬とライオン」、「北風と太陽」、「アリとセミ」からの考察」
- ・池澤一郎「池大雅『洞庭赤壁圖卷』の題画詩と跋文について——細谷半齋・葛子琴・頬春水——」
- ・閔愛善「清順映画にみる戦争と女性たち——『肉体の門』と『春婦傳』を中心には——」
- ・堀内正規「『オシリス、石ノ神』で吉増剛造がしていること」
- ・小沼純一「フィシス／ピュシス逍遙 メモとして」（以上掲載順）

トランスナショナル社会と日本文化

シンポジウム「柳田学の現代的意義を考える」

主催：「柳田学の現代的意義を考える—柳田国男生誕150周年記念シンポジウム」実行委員会

共催：日本地名研究所、早稲田大学文学学術院総合人文科学研究センター「トランスナショナルと日本文化」

部門、『柳田国男全集』（筑摩書房）編集委員会

日時：2025年3月8日（土）13:00～17:00

場所：早稲田大学戸山キャンパス36号館682号教室

プログラム・講演者等：

- 13:00 開演 趣旨説明 鶴見太郎（早稲田大学文学学術院教授）
- 13:10 招待講演 「変化に対する姿勢」（黒川創・作家）
- 14:00 「柳田国男を手掛に地域社会と向き合ってみる」（笠井賢紀・慶應義塾大学法学部准教授）
- 14:30 「柳田国男と竹内好」（田澤晴子・岐阜大学教育学部教授）
- 15:00 「柳田国男を読みながら遠州の民俗を記録する」（中山正典・静岡県立環境専門職大学客員教授）
- 15:30 「『明治大正史 世相篇』の実験」佐藤健二（東京大学副学長・東京大学未来ビジョン研究センター特任教授）
- 16:10 シンポジウム
- 17:00 閉会

パネラー5名の報告には、柳田の仕事を東アジア、東南アジアを軸足としながらトランスナショナルの領域から考察するという内容が目立ち、あらためて今後の柳田研究の展望を示していた。形式は対面のみとしたが、予想を上回る130名超の来会者があった。来会者の構成は、異なる専攻領域から柳田に関心を持っている研究者だけでなく、一読者として柳田の仕事に興味を持つ層も一定数含まれていた。学生・研究者に限らず、市民層の来会者が目立ったのは、柳田が在野に止まって「野の学問」を志向し、民間の歴史・習俗の研究を続けたことを反映したものであるといえる。

ひるがえって早稲田の歴史学が民衆史、民間学としての視座を重視して研究を重ねたことを考える時、今回のシンポジウムの内容は、民俗学という形で、柳田の思想が持つ現代的意味を広く社会に発信していく上でひとつ役割を担ったと位置付けることができる。今後、この実績を足掛かりにしながら、継続的にこの種のシンポジウムを行うことが望まれる。シンポジウム当日は、首都圏だけでなく関西その他、地方新聞社からの取材があったことは、当該のテーマに対する地域社会からの関心が高いことを示しており、社会貢献をはかる上

で当部門が地域メディアとの接点となることも検討される。

グローバル化社会における多元文化学の構築

早稲田大学多元文化学会 2024 年度春期大会

「源貴志先生のご業績を振り返る会」

主催：早稲田大学多元文化学会・早稲田大学文化構想学部多元文化論系

共催：早稲田大学ロシア文学会・早稲田大学総合人文科学研究センター 「グローバル化社会における多元文化学の構築」部門

日時：2024 年 6 月 29 日（土）14:00～16:30

場所：早稲田大学戸山キャンパス 33 号館 3 階第 1 会議室

14:00～14:10：開会の挨拶 堀内景子（文学学術院教授、論系主任）

司会 中澤達哉（文学学術院教授）

14:10～14:40：澤田和彦（埼玉大学名誉教授）

「若き日の源さんの想い出」

14:40～15:10：南平かおり（文学学術院非常勤講師）

「源貴志先生の業績から—『横田瑞穂（1904-1986）著作・翻訳年譜』と『昇曙夢 翻訳・著作選集』について」

15:20～15:30：多元教員から① 小田島恒志（文学学術院教授）

「The Source of Noble Mind」

15:30～15:40：多元教員から② 井上文則（文学学術院教授）

「源先生の想い出」

15:40～15:50：多元旧源ゼミ学生から 笠間奈緒（多元文化論系卒）

「拝啓、源先生」

15:50～16:00：露文教員から① 坂庭淳史（文学学術院教授）

「受けけるよりは与える方が幸いである」（メッセージ代読）

16:00～16:10：露文教員から② 三浦清美（文学学術院教授）

「源先生を偲んで 一早稲田という場が育んだ偉大なる常識人」

16:10～16:20：露文旧源ゼミ院生から 三浦領哉（文学学術院助手）

「源先生と、『戸山のディリーナ』」

16:20～16:30：フロアから

2023 年 12 月 15 日に急逝された源貴志教授を偲び、またそのご業績について振り返って近接分野の先生方にご講演頂くとともに、文化構想学部多元文化論系と文学部ロシア語ロシア文学コースの教員・元ゼミ学生・院生からもお話を頂いた。

金程宇先生講演会「東アジアにおける宋代仏教典籍の流傳」

主催：早稲田大学総合研究機構日本宗教文化研究所

共催：早稲田大学文化構想学部多元文化論系・早稲田大学多元文化学会・早稲田大学総合人文科学研究センター 「グローバル化社会における多元文化学の構築」部門

日時：2024 年 6 月 28 日（金）15:10～17:10

場所：早稲田大学戸山キャンパス 39 号館 6 階第 7 会議室

講演者：金程宇（南京大学教授）

李銘敬先生講演会

「大覚国師義天と東アジアの仏教文化交流—日本偽作『往生淨土伝』の編纂契機をめぐって—」

主催：早稲田大学総合研究機構日本宗教文化研究所

共催：早稲田大学文化構想学部多元文化論系・早稲田大学多元文化学会

早稲田大学総合人文科学研究センター「グローバル化社会における多元文化学の構築」部門

日時：2024年7月8日（月）15:10～17:10

場所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室

講演者：李銘敬（中国人民大学教授）

早稲田大学多元文化学会 2024年度秋期大会

主催：早稲田大学文化構想学部多元文化論系・早稲田大学多元文化学会

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター「グローバル化社会における多元文化学の構築」部門

日時：2024年10月26日（土）13:00～16:50

場所：早稲田大学戸山キャンパス33号館3階第1会議室

学生研究発表：13:05～15:05

異文化受容論ゼミ／現代中国文化論ゼミ／古典中国ゼミ／ヨーロッパ文化論ゼミ／Seminar on Global Japanese Culture and Media II

講演：15:45～16:50、

吉原浩人（本学教授）

「中国の大学—歴史と現状—」

岩田孝先生（早稲田大学名誉教授）講演会「仏教的思惟方法雑感」

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター「グローバル化社会における多元文化学の構築」部門・早稲田大学文学部・文学研究科東洋哲学コース

共催：早稲田大学文化構想学部多元文化論系・早稲田大学多元文化学会・早稲田大学東洋哲学会

日時：2025年3月30日（日）11:00～12:30（終了後、15分の質疑応答）

会場：早稲田大学戸山キャンパス33号館3階第1会議室

イメージ文化史

シンポジウム「ビザンティン聖堂壁画の世界」The World of Byzantine Wall Paintings

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」部門・早稲田大学美術史学会

場所：早稲田大学戸山キャンパス39号館2階美術実習室

日時：2024年5月18日（土）13:00～18:00

報告：瀧口美香（明治大学）「聖母伝サイクルの東西——サンタ・マリア・イン・トラステヴェレ聖堂とダニ修道院」

益田朋幸（早稲田大学）「パナギア・ペリプレトス聖堂の天使キリスト」

菅原裕文（金沢大学）「パラフレーズする絵画——キリスト昇架のイメージソース」

辻絵理子（埼玉大学）「アギオス・ニコラオス・オルファノス聖堂に描かれたふたりの女性」

太田英伶奈（早稲田大学）「後期聖堂装飾におけるヨセフ伝サイクルの機能——オフリド、スヴェータ・ソフィヤ聖堂を例に」

Athanasiou SEMOGLOU (Professor, Thessaloniki University) Protaton on Mount Athos: A pictorial «Εκφρασις» of Andronikos II Palaeologus imperial policy

Giovanbattista Tusa 氏講演会「Ecocosmism: The limits of an unsustainable life」

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」部門

日時：2024年6月29日（土）15:00～17:00

場所：早稲田大学戸山キャンパス 32号館 128教室
 講演：Giovanbattista Tusa 氏（リスボン NOVA 大学哲学研究所）
 題目「Ecocosmism: The limits of an unsustainable life」
 コメント：廣瀬純（龍谷大学）
 司会：橋本一径（早稲田大学）

日本映像学会 写真研究会 第13回研究発表会

主催：日本映像学会 写真研究会
 共催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」部門
 日時：2024年7月13日（土）14:00～18:00
 場所：早稲田大学戸山キャンパス 32号館 128教室
 進行：
 研究発表1 14:00～15:00
 内村麻奈美（早稲田大学博士後期課程）「フォト・コラージュ史における岡上淑子作品——エルンスト、ヘッヒ、タイゲとの比較から」
 研究発表2 15:10～16:10
 高橋倫夫（早稲田大学博士後期課程）「『小梅日記』にみる死者の像と写真——幕末・明治の和歌山の事例から——」
 研究発表3 16:20～17:20
 ショーン・ハンスン（Hansun HSIUNG）（ダラム大学）「空飛ぶ眼差し——念写／Thoughtographyの戦後——」
 全体討議 17:30～18:00 司会：橋本一径（早稲田大学）

第2回 デジタル人文学セミナー

「8K文化財コンテンツ配信授業—法隆寺救世観音と百濟観音、日米同時配信の試み—」
 主催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」部門
 共催：角田柳作記念国際日本学研究所・早稲田大学美術史学会
 協力：NHK／学習院大学／東北大／大阪大学／東京大学／ハーバード大学／聖徳宗総本山法隆寺
 日時：2024年10月8日（火）9:00～11:00
 場所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館第1会議室
 進行：
 09:00～09:15 各大学教員の紹介／8K文化財についての紹介動画
 09:15～09:40 彫刻専門教員（学習院・皿井舞、東北大・長岡龍作、阪大・藤岡穣）からのレクチャー
 09:40～09:55 絵画専門教員（ハーバード大・ユキオリピット、早大・山本聰美、東大・増記隆介）より応答
 09:55～10:55 各大学の学生からの質問など（各大学10分）
 10:55～11:00 クロージング

Dr. Antonio De Caro 氏講演会 *The Chinese Gaze of Our Lady: Distributing and Popularizing Marian Images during the Ming and Qing dynasties in China*

主催：早稲田大学美術史学会
 共催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」部門
 日時：2025年1月14日（火）18:00～19:30
 場所：早稲田大学戸山キャンパス 36号館 681教室

講演：Dr. Antonio De Caro (University of Zurich, Switzerland)

題目：*The Chinese Gaze of Our Lady: Distributing and Popularizing Marian Images during the Ming and Qing dynasties in China* (明清時代の中国における聖母マリアへの眼差し)

司会：児嶋由枝 (早稲田大学)

東アジアの人文知

【講演会などの開催】

- ・2024年4月6日（土）千野拓政：Where are we going now? Subculture in East Asian cities and the heart of youth, Endless Narration: Exploring New Trends and Perspectives in Eastern and Western Literature, East China Normal University, Shanghai
- ・2024年11月3日（日）千野拓政：围绕中国文学的想象巨变—边缘化？世界化？跨界？（浙江大学）
- ・2024年11月23日（土）千野拓政：我们跑到哪里去？—东亚诸城市青年文化的兴起与文学的变革—跨界性与世界性：中国当代文学研究的理论与实践国际学术研讨会（杭州师范大学）
- ・2024年11月25日（月）千野拓政：我们跑到哪里去？—东亚诸城市青年文化的兴起与文学的变革—“中国新文学演进中的常识、经验与教训”国际研讨会（南京大学）

【シンポジウムなどの開催】

第18回国際フォーラム「越境する人文知」

日時：2024年7月3日（水）13:30～17:30

場所：早稲田大学戸山キャンパス39号館第5会議室

張媛穎（上海大学）、馮鍇宇（早稲田大学）、劉志穎（早稲田大学）、陶国亮（早稲田大学）、吳錦佩（中国暨南大学）、王婧璇（中國暨南大學）、郭蓓蓓（北京日本学研究センター）による研究発表を行ったのち、全体ディスカッションを行った。

行動・社会・文化に関する多角的アプローチ

【研究会・講演会等】

2024年度には、第1回笑いフォーラムを部門共催として開催して、国内から専門家を招聘して、笑いを活用した心身の健康法である「笑いヨガ（笑いの体操）」に関する身体心理学および心身医学分野の学術研究発表および実践発表、ワークショップを行い、当該分野における学術研究および実践に関する最新の情報交換、および参加者間の交流を行った。2021年9月9～10日に研究部門「心と身体の関係と可塑性に関する学際的研究」（当時）との共催を得て戸山キャンパスで開催した「日本ソマティック心理学協会第8回記念大会」の成果を経ての類似したワークショップであり、関連分野の研究者と学生の教育に意義ある成果が得られた。

また2024年度には生物工学分野で顕著な業績を有するドイツ Eberhard Karls Universität Tübingen の玉井湧太氏を招き、研究発表のみならず、赤外光レーザーの生体利用の知見を紹介いただき、早稲田の研究者・大学院生・学部生の教育・研究の推進に活用し、またドイツ研究環境・方法論について学習し、心理学のアウトリーも行った。本講演シリーズは、部門メンバーのみならず、学生へも刺激となっており、参加した学生からは、大学院進学についての相談も受け付けている。

【心理学セミナーシリーズ】

1. 川畠秀明「アートを鑑賞する心と脳の働き」
2. 玉井湧太「赤外光レーザーを用いたイヤホン型人工内耳の開発を目指して」

など

現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究

【講演会】

タイトル：超高齢社会の孤立・孤独問題における障害児・者の家族支援の実践と課題—『親なきあと』相談室 関西ネットワークを事例として—

講演者：藤井奈緒氏（『親なきあと』相談室 関西ネットワーク・代表理事）

日時：2025年2月4日（火）14:00～16:00

内容：重度の障害をもつお子さんを育てている藤井氏から同じ悩みを持つ親の居場所づくりを行なったり、幅広く障害のある子供の持つ親の支援を行なっていること、その上で当事者だけでは知り得ない、あるいは口に出て表に言えないと悩んでいるような悩みに対して具体的なケースを示しながら、高齢社会が進む日本における今後に重要な保護者や兄弟の悩み事や課題についてお話をいただいた。また、全国的に講演を行い、悩まれている親や行政へのアドバイスを行なっている組織を運営しているため、その組織の課題についても語っていただいた。質問も活発に出され、その後参加者同士での交流も積極的に行われた。参加者22名。

【出版】

阿比留久美・共著『不登校問題と子ども・若者の「居場所」の現在』早稲田大学総合教育研究所監修、学文社、2025年。

知の蓄積と活用にむけた方法論的研究

【アーカイブズを活用した研究会】

1. 1970年代夕張在住世帯データベース構築にむけた研究会（科研B）

・研究会（5回）（2024年4月19日、5月24日、12月3日、2025年2月18日）

・札幌学院大学SORDでの作業（3回）（2024年7月20日、8月20日、2025年2月18日）

2. 産業・地域・家族研究会

・パーソナルドキュメントを活用した産業・地域・家族に関する研究会（3回）（2024年4月26日、12月1日、2025年1月25日）

・第34回日本家族社会学会大会テーマセッション「産業・地域から家族と労働をとらえなおす」（コーディネーター：嶋崎、5報告：2024年9月7日）

・成果：2025年度に論文集を刊行予定

3. 台湾研究会

・最終成果物刊行『台湾炭鉱の職場史』（2024年8月、青弓社）の報告と、今後の研究に関する相談：瑞三炭鉱関係者ほか（2024年6月、12月）

【個別アーカイブズとの連携事業】

1. 夕張市教育委員会・夕張地域史研究資料調査室との連携事業

・「ゆうばり歴史・教育資料室所蔵資料」調査ならびに保存・活用（2021年度からの継続プロジェクト）

・嶋崎研究室と夕張市教育委員会とで「ゆうばり歴史・教育資料室所蔵資料の調査についての覚書」を結び、人文研招聘研究員笠原良太氏を中心に、資料アーカイビング作業を行った（2024年11月）。

2. 三池炭鉱（関連）社宅史研究会との連携事業

・大牟田市での調査など（2024年5月、6月、10月、11月、2025年2月）

3. 常磐炭鉱関連資料アーカイブズ：常磐炭田史研究会との連携事業

・いわきでの調査・研究会（2024年11月）

4. 宇部炭鉱関連資料アーカイブズ：宇部炭鉱記念館との連携事業（2024年7月、2025年3月）

5. 池島炭鉱関連資料アーカイブズに関する事業

・池島炭鉱関連資料アーカイブについて、三井松島リソーシス会社、元住民との共同作業（2025年3月）。

【出版】

1. 嶋崎尚子ほか『台湾炭鉱の職場史——鉱工が語るもう一つの台湾』2024年8月、青弓社
2. 『WASEDA RILAS JOURNAL』（No.12）特集2「石炭産業から何を学ぶか——学術研究の可能性と産業遺産の社会的意義を考える」（8論考）
3. 『WASEDA RILAS JOURNAL』（No.12）特集3「『芦別——炭鉱〈ヤマ〉とマチの社会史』刊行記念シンポジウム』（4論考）

社会の複雑化・階層化の史的パースペクティブ

【出版・論文】

- ・『唐代都城中枢部の考古学的研究』城倉正祥 六一書房 2025年3月10日（ISBN：9784864451857）
- ・『玉清水（1）遺跡発掘調査報告書』高橋龍三郎（編著）早稲田大学考古学研究室・青森県立郷土館

【学会・研究会・シンポジウム等】

- ・本庄市講演会「縄文土器を製作する人々の心性」高橋龍三郎 本庄早稲田の杜ミュージアム、早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター3階レクチャールーム 2024年5月18日
- ・信州大学医学部講演会「信州大学の調査研究と日本の考古学」高橋龍三郎 信州大学史センター 長野県埋蔵文化財センター共催 信州大学医学部 2024年9月17日
- ・国際基督教大122回公開講座／三鷹市公開講座「野川中流域の旧石器時代 人と文化」長崎潤一 国際基督教大学湯浅八郎記念館 2024年9月21日
- ・長野県考古学会講演会「縄文土器の製作と呪術」高橋龍三郎 2024年10月13日
- ・新潟県立歴史博物館講演会「縄文社会における装身具」高橋龍三郎 山の洲文化財交流事業 2024年10月20日
- ・山梨県立考古博物館特別展講演会「動物形土製品の社会的機能と役割—氏族制社会からの照射—」高橋龍三郎 2024年11月24日
- ・神奈川県埋蔵文化財センター講演会「科学で読みとく縄文社会—ゲノムや同位体などの分析からみた縄文社会研究の成果—」高橋龍三郎 2025年1月11日
- ・埼玉県桶川市講演会「パプアニューギニア民族誌から見た土器の移動」高橋龍三郎 桶川市歴史民俗資料館 2025年3月29日

角田柳作国際日本学研究所

【研究会】

◇『於野譚』研究会

- 2024年4月5日、5月17日、6月21日、7月26日、9月6日、10月18日、11月29日、12月27日、
2025年1月31日、2月21日、3月28日（ハイブリッドにて開催）
・朝鮮の「野談」資料を輪読する研究会を、夏季休業を除き毎月一回開催。

【開催したシンポジウム・講演会・ワークショップなど】

※当研究所が主催した催しには◎印を、共催・後援などで関与した催しには○印をそれぞれ付した。

◎酒井直樹先生講演会「荒地を荒地として生きる」

開催方法：ハイブリッド（早稲田大学戸山キャンパス33号館第1会議室）

日時：2024年4月30日（火）17:00～19:30

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所
 登壇者：酒井直樹（コーネル大学名誉教授）
 ディスカサント：渡邊英理（大阪大学教授）
 司会：坪井秀人（早稲田大学文学学術院教授）
 対面参加者：123名、オンライン参加者：126名

◎ M.W. ショアーズ先生講演会「キーン先生による日本文学の評価そして落語」

開催方法：対面（早稲田大学小野記念講堂）
 日時：2024年5月31日（金）18:00～19:30
 主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所
 共催：早稲田大学国際日本学コース、ドナルド・キーン記念財団
 登壇者：M.W. ショアーズ（シドニー大学准教授）
 参加人数：130名

◎ コロンビア大学名誉教授 Paul Anderer先生 講演会「Shadowlands: Reflections on One Hundred Years of Modern Japanese Literature」

日時：2024年6月14日（金）17:00～18:30
 開催方法：対面（早稲田大学戸山キャンパス33号館第1会議室）
 主催：早稲田大学文学学術院国際日本学コース
 共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、SGU国際日本学拠点、柳井イニシアティブ グローバル・ジャパン・ヒューマニティーズ・プロジェクト
 企画・運営協力：西村こと、浜地百恵、ペント勇亮ヘンリー（早稲田大学大学院文学研究科）

◎ アリエル・スティラーマン先生（スタンフォード大学）講演会「いい寺つくろう鎌倉の大工——中世前期の縁起絵巻における現場描写について——」

開催方法：対面（早稲田大学戸山キャンパス33号館第1会議室）
 日時：2024年6月17日（月）17:00～18:30
 主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所
 登壇者：アリエル・スティラーマン（スタンフォード大学 Assistant Professor）
 コメンテーター：山本聰美（早稲田大学文学学術院教授）
 司会：陣野英則（早稲田大学文学学術院教授）
 参加人数：38名（学内者27名、学外者11名）

◎ ダリオ・ミングツィ氏講演会「平安時代初頭における渤海詩のエコロジー」An Ecology of Parhae Poetry in Early Heian Japan

開催方法：対面（早稲田大学戸山キャンパス33号館第1会議室）
 日時：2024年7月22日（月）17:00～18:30
 主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所
 登壇者：ダリオ・ミングツィ（ソウル大学客員研究員）
 コメンテーター：高松寿夫（早稲田大学文学学術院教授）、田中史生（早稲田大学文学学術院教授）
 司会：河野貴美子（早稲田大学文学学術院教授）
 参加人数：34名

◎ワークショップ「日本中世の女性の文学を今どう読むか？—『阿仏の文』の英訳と日本語注釈において—」
Medieval Japanese Women's Writing and Abutsu's Letter: Approaches to English Translation and Japanese Commentary

開催方法：対面（早稲田大学戸山キャンパス 33 号館第 1 会議室）

日時：2024 年 7 月 24 日（水）16:00～17:30

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

登壇者：田渕句美子（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）、Christina Laffin（ブリティッシュ・コロンビア大学准教授）

司会：河野貴美子（早稲田大学文学学術院教授）／閉会のことば：陣野英則（早稲田大学文学学術院教授）

参加人数：40 名

◎ゼバスティアン・バルメス氏講演会「ナラトロジーと日本中世文学——物語論の諸問題と『神道集』の「物語的縁起」を中心に——」

開催方法：対面（早稲田大学戸山キャンパス 33 号館第 1 会議室）

日時：2024 年 7 月 30 日（火）16:00～17:40

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

登壇者：ゼバスティアン・バルメス（チューリッヒ大学 Senior Research Fellow and Lecturer）

コメント：徳田和夫（学習院女子大学名誉教授）／司会：陣野英則（早稲田大学文学学術院教授）／閉会挨拶：河野貴美子（早稲田大学文学学術院教授）

参加人数：41 名

○「人新世と人文学」第 12 回公開講座「日本の古典和歌における歌枕・名所の変貌」

開催方法：ハイブリッド（早稲田大学戸山キャンパス 33 号館第 10 会議室）

日時：2024 年 8 月 3 日（土）10:00～11:45

主催：早稲田大学高等研究所

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

登壇者：フィットレル・アーロン（早稲田大学高等研究所・招聘研究員）

総合司会：山本聰美（早稲田大学文学学術院教授）

参加人数：約 20 名

○デジタル人文学セミナー第 2 回「8K 文化財コンテンツ配信授業—法隆寺救世觀音と百濟觀音、日米同時配信の試み—」※詳細は「イメージ文化史」部門を参照。

日時：2024 年 10 月 8 日（火）9:00～11:00

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」部門

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、早稲田大学美術史学会

○北米美術図書館協会（ARLIS/NA）スタディ・ツアー

開催方法：対面（會津八一記念博物館、中央図書館、国際文学館）

日時：2024 年 10 月 25 日（金）10:00～12:00

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所

共催：會津八一記念博物館、中央図書館、東京文化財研究所

○国際シンポジウム「東西比較を通じた廃墟の文化史」

開催方法：対面（東京大学本郷キャンパス法文 2 号館教員談話室）

日時：2024年10月31日（木）15:30～19:00

15:30 開場

16:00～16:20 趣旨説明 渡邊裕美子（立正大学）

16:20～17:00 講演1 シラネ・ハルオ（コロンビア大学・東京カレッジ招聘教員）

「Decaying Trees as Living Ruins: Medieval Japan in East-West Context」

（生きた「廃墟」としての朽ち木：東西比較における中世日本）

17:00～17:10 休憩

17:10～17:50 講演2 平泉千枝（渋谷区立松濤美術館学芸員）

「西洋美術史における廃墟表象——一人はなぜ廃墟に惹きつけられるのか？」

17:50～18:05 コメント 陣野英則（早稲田大学）／山本聰美（早稲田大学）

18:05～18:15 休憩

18:15～19:00 質疑応答

19:00 閉会

主催：サントリー文化財団研究助成（学問の未来を拓く）「前近代日本における廃墟の文化史」（研究代表者：渡邊裕美子）

共催：科学研究費基盤研究（C）（24K03655）「記憶と中世文学——作品生成をめぐる相関関係の解明——」

（研究代表者：木下華子）、早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、SGU国際日本学拠点

総合司会：木下華子（東京大学）

◎早稲田大学総合人文科学研究センター2024年度年次フォーラム

第五回中日古典学ワークショップ／第五届中日古典学工作坊

開催方法：対面（戸山キャンパス38号館AV教室）

日時：2024年11月9日（土）9:00～18:00、11月10日（日）9:00～12:30

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、北京大学中文系中国古典学研究平台

共催：早稲田大学総合研究機構 日本古典籍研究所、早稲田大学特定課題研究助成費（課題番号：2024Q-004）

登壇者：傅剛、杜曉勤、佐々木孝浩、高松寿夫、吉原浩人、程蘇東、葉暉、笛原宏之、雷塘洵、金程宇、田中史生、李成晴、李林芳、河野貴美子、山本聰美、劉玉才、胡琦、程夢穎、劉雨珍、陣野英則、廖彩宏、宋專專、高橋宙暉、楊卓婧、李苑彤、朱瑞澤、許雲瀚、山本早紀、劉佳琪、櫻本香織

司会：河野貴美子、程蘇東、田中史生、傅剛、吉原浩人、葉暉、笛原宏之、金程宇、劉雨珍、劉玉才、高松寿夫、李成晴、山本聰美、胡琦、陣野英則

開会挨拶：大穂哲也、劉玉才／閉会挨拶：杜曉勤、クリストファー・リーブズ

※詳細は本誌掲載の「早稲田大学総合人文科学研究センター2024年度年次フォーラム」（本誌225～230頁）を参照。

○「人新世と人文学」第13回公開講座「岩窟で祈る——東西の洞窟聖所をめぐって」

開催方法：対面（早稲田大学戸山キャンパス36号館382教室）

日時：2025年1月12日（日）13時00分～16時30分

13:00～13:05 開会挨拶（山本聰美／早稲田大学教授）

13:05～13:10 趣旨説明（桑原夏子／早稲田大学高等研究所講師）

13:10～13:40 「西域仏教石窟寺院のトポス—クチャの説一切有部の説話世界」（檜山智美／国際仏教学院大学特任研究員）

- 13:40～14:10 「キリスト教における岩窟聖堂——フランスの例を中心に」(奈良澤由美／城西大学教授)
14:20～14:50 「妖精の煙突の小さな修道院——アギオス・シメオン・スティリティス聖堂（カッパドキア・パシヤバー地区）とその修道コミュニティー」(菅原裕文／金沢大学准教授)
14:50～15:20 「地中の楽園——イタリア、マテーラ近郊「原罪のクリプタ」における祈りの世界」(桑原夏子／早稲田大学高等研究所講師)
15:30～16:00 パネルディスカッション（司会：山本聰美／早稲田大学教授）
16:00～16:30 質疑応答
- 主催：早稲田大学高等研究所
共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、早稲田大学美術史学会

○聖なる空間と異類の物語：仏教美術と文学のエコクリティカルな視点 Sacred Spaces and Non-Human Narratives: Ecocritical Perspectives on Buddhist Art and Literature

開催方法：対面（ハーバード大学美術館、同 CGIS 南館セミナールーム）

日時：2025年3月7日（金）10:00～18:00、8日（土）10:00～16:30

- ◆3月7日（金）ハーバード大学美術館所蔵作品に関するワークショップと講演
① 10:00～15:00 ハーバード大学美術館で、「日本須弥諸天図」を中心に、作品調査とワークショップ（大学院生を中心とした研究報告とディスカッション）を実施。
② 16:30～18:00：講演・山本聰美（早稲田大学）“Mount Meru and Beyond: Genealogies of Buddhist Worldviews in Art and Literature”

- ◆3月8日（土）シンポジウム「ハーバード大学美術館蔵『日本須弥諸天図』をめぐって—日本と東アジアの〈環境・景観文学〉」

10:00～16:30 研究発表（会場：ハーバード大学美術館、同 CGIS 南館・大セミナールーム）

小峯和明（立教大学）「『日本須弥諸天図』の世界—須弥山の図像と言説を中心に」

高陽（清華大学）「『日本須弥諸天図』をめぐる諸問題—須弥山と天竺図から」

山本聰美（早稲田大学）「山と聖地：ハーバード大学美術館所蔵『高野山曼荼羅』を中心に」

梅沢恵（共立女子大学）「神々の住まう景観：熊野のトポス」

コメンテーター：阿部龍一（ハーバード大学）、マックス・モアマン（コロンビア大学）、レイチェル・サンダーズ（プリンストン大学）、メリッサ・マコーミック（ハーバード大学）、阿部泰郎（龍谷大学）、阿部美香（名古屋大学）

司会兼コメンテーター：河野貴美子（早稲田大学）

主催：ハーバード大学ライシャワー日本研究所

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、SGU 国際日本学拠点、

科研費基盤 B（代表：小峯和明）「16世紀の日本と東アジアの〈環境・景観文学〉をめぐる総合的比較研究」、科研費基盤 B（代表：山本聰美）「法華経美術の中世的拡張—顕・密・淨土融合の造形と空間」、龍谷大学世界仏教文化研究センター「国際学術交流に関する総合的研究」、サントリー文化財団研究助成

○絵解きフォーラム in ニューヨーク “Etoki (Buddhist Picture-Telling-Preaching) in New York”

開催方法：対面（コロンビア大学 Kent Hall、同 The Forum at Columbia University）

日時：2025年3月10日（月）13:00～14:00、11日（火）18:00～20:00

- ◆3月10日（月）絵解きワークショップ

Illustrated Mountains as a Sacred Place: Mt. Meru, Vulture Peak, Kumano and Mt. Fuji

開会の挨拶 マシュー・マッケルウェイ（コロンビア大学）

報告① 山本聰美（早稲田大学）“Sacred Mountains of Buddhism and Painting”

報告② 梅沢恵（共立女子大学）“Mountain Worship in Medieval Japan”

報告③ タリア・アンドレイ（ウェズリアン大学）“Depicted Pilgrimage for Mt. Fuji”

コメント：大澤茉歩（早稲田大学）、大岩雅典（早稲田大学）、マックス・モアマン（コロンビア大学）

報告④ 阿部泰郎（龍谷大学）“Sacred Mountains in Prince Shotoku Paintings for E-toki”

報告⑤ 阿部美香（名古屋大学）“Contemporary Recreations of Mount Fuji in E-toki Picture Storytelling”

閉会の挨拶 シラネ・ハルオ（コロンビア大学）

◆3月11日（火）シンポジウム・パフォーマンス（会場：コロンビア大学）

Buddhist Picture-Telling (E-toki) Performance with Painting Scrolls of the Life of Prince Shotoku

開会の挨拶：シラネ・ハルオ（コロンビア大学）

18:00～18:20 解説：阿部泰郎（龍谷大学）、阿部美香（名古屋大学）

18:30～19:40 絵解きパフォーマンス：山岡武明（四天王寺執事）、舛田英伸（浄土宗弥陀讚堂堂守）、柳野明仁（真宗大谷派本澄寺住職）

19:40～20:00 コメント：山本聰美（早稲田大学）

閉会の挨拶：シラネ・ハルオ（コロンビア大学）

主催：コロンビア大学ドナルドキーン日本文化センター／コロンビア大学バーク日本美術研究センター

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、SGU国際日本学拠点、科研費基盤B（代表：山本聰美）「法華経美術の中世的拡張—顯・密・淨土融合の造形と空間」、科研費基盤A（代表：阿部泰郎）「宗教テクスト文化遺産アーカイヴス創成学術共同体による相互理解知の共有」、龍谷大学仏教文化研究センター、名古屋大学人類文化遺産テクスト学研究センター

○岩佐又兵衛の源氏絵（第14回源氏絵データベース研究会）

開催方法：対面（戸山キャンパス38号館AV教室）

日時：2025年3月22日（土）14:00～17:00

第1部 研究発表（司会：稻本万里子（惠泉女子大学））

14:00～14:40 発表1：廣海伸彦「出光美術館の源氏絵—葵巻の絵画化を中心に」

14:50～15:30 発表2：戸田浩之「岩佐又兵衛筆「和漢故事説話図」（福井県立美術館蔵）の源氏絵について」

第2部：ディスカッション（司会：三宅秀和（群馬県立女子大学））

15:45～16:30 廣海+戸田「岩佐又兵衛の源氏絵—旧金屋屏風を基点に」

16:30～17:00 質疑応答

主催：科研費基盤A（代表・稻本万里子）「源氏文化ポータルを共有・活用した源氏絵の俯瞰的・創発的研究」

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、SGU国際日本学拠点

登壇者：廣海伸彦（出光美術館）、戸田浩之（皇居三の丸尚蔵館）

○南開大学教授劉雨珍先生講演会「日中における白詩受容と変容の諸相—「香炉峰の雪」をめぐって」

開催方法：対面（戸山キャンパス33号館432教室）

日時：2025年3月27日（木）15:00～17:00

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター角田柳作記念国際日本学研究所、早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所

登壇者：劉雨珍（南開大学）

拡大するムスリム社会との共生

・イサーム・クルバージュ氏講演会「“Watan / Homeland: An unsafe place, barbed”（ワタン／ホームランド：有刺鉄線で囲われた安らかならざる処）illustrated talk by Syrian Artist Issam Kourbaj シリア人アーティス

ト・イサーム・クルバージュ氏から紡ぎだされる物語」

日時：2024年5月14日（火）19:00～21:00

場所：早稲田大学戸山キャンパス34号館151教室

・サマル・ヤズベク氏講演会「シリアの祖国、文学、女性—小説『歩き娘』を入口に」

日時：2024年6月16日（日）14:00～16:30

場所：早稲田大学小野記念講堂

COVID-19 を経験した社会の人文学

本研究部門は、全4回の研究会を開催した。それぞれの研究会の開催日時、話題提供者を以下に記す。なお、毎回の研究会のまとめはすでに人文研に提出し、HPに掲載されている。

〈第1回研究会〉

開催日：2024年5月24日（金）

方法：Zoomを使用したオンライン開催

参加者数：10名

発表題目：文化を伝える心の不思議

報告者：田中雅史（本学准教授）

第1回研究会は、田中雅史氏が話題提供を行った。同氏は心理学の見地から、「文化」の定義や機能について複数の現行仮説を例示しつつ、人と動物の文化に関連する動物行動学・神経科学・考古学・文化系統学などの最新の研究知見を紹介した。

〈第2回研究会〉

開催日：2024年10月12日（土）

方法：Zoomを使用したオンライン開催

参加者数：11名

発表題目：「共在」への社会学的接近

報告者：草柳千早（本学教授）

第2回研究会は、草柳千早氏が話題提供を行った。同氏は社会学の見地から、COVID-19パンデミックをきっかけに「オンライン」や「リモート」が広まったことを踏まえ、「いまここ」を共にする人ととの身体的・対面的な相互作用すなわち「共在」について、社会学者ゴフマンほかの研究をもとに考察した。

〈第3回研究会〉

開催日：2024年12月13日（金）

方法：Zoomを使用したオンライン開催

参加者数：8名

発表題目：エスニック・マイノリティのコミュニティが直面した問題、適応の過程の報告—北カリフォルニアのNPO法人の例—

報告者：軽部紀子（招聘研究員）

第3回研究会は、軽部紀子氏が話題提供を行った。同氏は文化人類学の見地から、COVID-19パンデミックが、米国カリフォルニア州北部に40年以上前に設立された、ハワイ先住民によるエスニック・マイノリティのための非営利団体の活動のあり方をどのように変えたかを報告した。

〈第4回研究会〉

開催日：2025年2月7日（金）

方法：Zoomを使用したオンライン開催

参加者数：7名

発表題目：アーティストによる作品との出会いの場の創出

報告者：関直子（本学教授）

第4回研究会は、関直子氏が話題提供を行った。同氏は、パンデミック発生後に変化を被った美術鑑賞の機会について、美術館の理念と歴史を振り返った上で、アーティスト自身による場の創出という動向があることを報告した。

以上、4回の研究会では、心理学、社会学、文化人類学、美術学から、COVID-19を経験した社会が被った影響について、あるいは被ると予測されたにもかかわらずそうならなかった影響について、たいへん興味深い話題提供を伺うことができた。いずれの回においても後半は参会者による質疑が行われたが、研究者による領域横断的な交流という範囲を超えた、学術的な刺激のある対話が実現した。

【過去・現在・未来をつなぐ社会構想と協働実践】

2024年度の活動（研究会）

第1回研究会（2024年9月）

・箕面在弘（研究員）

「反一反設計主義のフィールドワーク」

第2回研究会（2025年1月）

・田畠幸嗣（研究員）

「遺跡調査を通じたパブリック・ヒストリーの実践：東南アジアと日本から」

・金敬默（研究員）

「アイルランド、キプロスと朝鮮半島における平和プロセスの実践的考察——教育と市民社会の役割から」

2022～24年度の3年間の研究活動は、2025年度から新規にスタートする社会構築論コースの立ち上げの準備期間を兼ねて、社会構想（ソーシャル・デザイン＆イノベーション）と関連する協働実践の在り方について多様なディシプリン、方法論を人文科学の視座から協議し、適用する公論の場として機能してきた。2025年度以降は、これらの活動を教育実践と社会貢献、研究としての実践と関連付けて展開していくことに心がけている。また、2025年度から社会構築論コースが始まるこによって、3年間準備してきた活動が、教育課程において適用され、若手研究者の育成につながるプロジェクトが本格的に始動する予定である。

【学会発表等】

金敬默

・Digital Public Diplomacy between Northeast Asia and Southeast Asia, October 2024.

・“북일의 퍼블릭 디플로머시 국제 이해와 시민교류—한일연대의 경험과 재일코리안의 존재”〈친밀성과 공공성에서 접근하는 ‘한일연대’〉at Yonsei University Seoul 2 November 2024.

・Contestation in SEA: Japanese and South Korean Public Diplomacy, “Japanese NGOs in East Asia,” at Monash University Malaysia, November 2024. (国際ワークショップ、マレーシア、クアラルンプール)

・2024. 09～10. Peace Boat Global Voyage 118 「朝鮮戦争を終わらせるこの意味」

・2024.12.03 at Goethe University, Zainichi Community, Divided nation and Peace Movement

高野孝子

- ・「国際的な野外教育研究動向～IOERC10の発表分析から～」自主企画シンポジウム、日本野外教育学会 2024年6月、日本女子体育大学
- ・「ミクロネシア連邦ヤップ州ヤップ島での青少年教育プログラムと32年間で見えた島の社会変容—体験の長期的影響調査と社会・環境課題への取り組み—」、第11回太平洋諸島学会 2024年7月、東京大学
- ・2024年10月「RSLのデザインーRSLローカル南魚沼の事例」、立教サービスラーニングセンター関係者連絡会
- ・2024年12月「持続可能な社会と市民の役割」、Green Innovator Forum

豊田真穂

- ・豊田真穂〔司会〕2025『優生保護法のグローバル史』合評会 早稲田大学 2025年1月17日。
- ・Maho Toyoda 2024 “Reproductive Rights and Japan’s Eugenic Protection Law,” Waseda Institute for Global Health Symposium: “Sexual and Reproductive Health and Rights (SRHR) in Japan and the United States,” Waseda University, December 18, 2024.

森山至貴

- ・「私たちを閉じこめる「ずるい言葉」～10代から知っておきたいコト～」西宮市 男女共同参画週間講演会 2024

【出版】

金敬默

- ・山本淨邦、金敬默（編）『日韓スタディーズ ①新たな研究と学び：日本と韓国をつなぐ』ナカニシヤ出版、2024年8月。ISBN：9784779518164

豊田真穂

- ・豊田真穂（編）『優生保護法のグローバル史』人文書院、2024年12月。
- ・豊田真穂「GHQ占領下の女性労働運動—どのような要求を掲げたのか」（連載第2回「ジェンダーの視点から戦後女性労働運動を振りかえる」）『月刊学習の友』2025年1月号（2024年12月）。
- ・豊田真穂「生理休暇について山川菊栄に聞いてみた」『GRL Studies』2024年3月、71-72頁。

森山至貴

- ・森山至貴『「ふつうのLGBT」像に抗して：「なじめなさ」「なじんだつもり」から考える』青土社、2024年11月。ISBN：9784791776849